

船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結び —

校長室だより No.14

“やさしく かしく たくましく”
～ 本気と礼節の教育 ～

令和3年11月17日 文責:安生昌弘

◆ 校内マラソン記録会で『たくましさ』を…

学年毎に行われた校内マラソン記録会が昨日の1, 2年生で全て終了しました。担任以外の教員も可能な限り配置して安全に努めましたが、ご家庭での健康管理のお陰でもあると無事終了に感謝申し上げます。どの子も真剣に走る姿は素晴らしいの一言でした。多くの子がマラソンをあまり好きではないでしょうから、練習も含めて、苦しい事から逃げない『たくましさ』、困難に立ち向かっていく『たくましさ』を身に付けてくれたのではないかと思います。



先週末、将棋の藤井聡太九段が最年少四冠というニュースに多くの方が沸き立ちました。藤井四冠は、類(たぐ)いまれなる将棋の才能も持っているのでしょうか、小学2年の時、負けて泣きじゃくるほどの負けん気の強さや高校を中退してまで将棋の研究に全力を尽くす努力があったからこそその偉業だと思います。私が以前勤務した学校にマラソンタイムで泣きながら走る1年生がいました。毎日、辛くて泣きながら走るのですが、決して途中で止める事はありませんでした。そして、2年生になる頃には凛々しい表情で走る事ができるようになりました。「努力は決して、その人を裏切らない」という事を藤井四冠やその子から学びました。

これからは、なわ跳び運動に取り組みます。回数を多く跳んだり、長時間跳んだりする事はマラソンと似ていて、止めたくなる自分の心に打ち勝つ事が必要です。練習(努力)は決して裏切らないという経験を積んで欲しいと思っています。

◆ 『七五三』に子ども達の将来を思う

15日は“七五三”でした。今年の11月は穏やかな気候である上にコロナ禍の状況が落ち着いた事もあり、神社仏閣では、お参りをする家族づれを去年より多く見かけました。我が娘3歳の「髪置きの儀」と息子5歳の「袴儀」を一緒に祝った時は大変でした。娘は前髪を上げた初めての日本髪と化粧に衝撃を受けたらしく、顔を見られまいと四つんばいで通そうとする始末。息子はおろおろするばかりで、とうとう記念写真のない七五三になってしまいました。娘が7歳の「帯解きの儀」



を祝った時は平和でした。分別がつくようになり、親族7人そろって神社前で笑顔の記念写真を撮る事ができました。我が家の居間に飾ってある、その写真は私たち家族をいつも励ましてくれています。

七五三を祝うのは、その風習が始まったとされる江戸時代は当然の事だったでしょう。江戸時代の乳幼児の生存率は50%位だったそうですから、7歳まで育った喜びは一人(ひと)おだったわけです。時代は変わりましたが、小学校入学までは病気がちだった娘の事を考えると、親が七五三を祝う気持ちは今も同じだと感じています。

ところで、“就職七五三”をご存じですか。就職後の転職率が、中学卒7割、高校卒5割、大学卒3割…。これは昭和までの事で、現在は高卒5割、大卒4割だそうです。今の若者には終身雇用という考え方はなく、特に首都圏では、転職は悪い事ではなく普通の事のように。我が娘は20代にして3つ目の会社で働いていますし、息子は2つ目の会社で働きながら、次の転職を考えているようです。コロナ禍による厳しい経済状況の今、7歳をとうに過ぎて自立した息子や娘の心配をする時代になってしまいましたが、健康で働ける事が幸せなのだろうと考えています。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。